

会議・協議・相談等 記録簿

令和4年3月14日

- 会議名 丹波市市島地域市立小学校統合準備委員会
第3回竹田・前山地域部会
- 日時 令和4年3月3日（木）19:40～20:40
- 場所 ライフピアいちじま団体室
- 出席者 委員：青木修、余田義信、吉見祐也、山邊敦、井上直人、荻野有希、足立三友紀、四方まどか、蘆田勤、吉見典彦、余田淳子
事務局：足立次長、船越係長
統合準備委員：川上委員長、山口滋唯

●内 容

1 統合の時期及び場所について

令和6年度に統合する場合の検討項目とスケジュールを提示し、前回から引き続き統合の時期及び場所を検討した。

【意見等】

- ・竹田小 PTA としては、前山小が今後複式学級となるのであれば竹田小で一緒になればいいのではないかという考えである。そういう意味でいうと前山小を活用するという概念はない。前山小を活用するという事が前提であればアンケートの結果が大きく変わってくる事が考えられる。
- ・竹田小学校を見学してから検討するという流れが飛んでしまっている。
- ・子どもに大きくて古い建物と小さくて新しい建物のどちらがいいか聞いてみたらいいのではないか。一般的に小さくて新しい建物が良いのではないかと思う。
- 竹田小 PTA の価値観からいうと、そこはあまり関係ない。もちろんその感覚は否定しないが、実際に学校で勉強するのは子どもであり、それを見届けるのは保護者である。竹田小 PTA には前山小に行くという考えがないため、前山小の校舎にこだわるのであれば、このままでは仲違いのような形になってしまう。それは避けたほうがいいのではないか。
- ・竹田小も見てもらおうべく学校や教育委員会で調整はしていたが、前はコロナの感染状況を踏まえ、外部から人を入れることが難しく見学がかなわなかった。現在も外部から人を入れるににくい状況であることはご理解願いたい。
- ・竹田小 PTA で協議する中で、どちらにも学校がある中で、相手の子どもの事も考えて協議したいというスタンスで前に進めたいという意見もあった。また、アンケートを実施した際のイメージは、竹田小としては人数的にやっていけることがわかっている状況の中で、前山小が複式となる状況が見えているのであれば一緒に竹田小でやっていこうというスタンスであるという意見もあった。そのような中で、どちらの学校という議論になると中々譲れないところがある。今後、統合という話になると様々なことを調整しなければならないが、例えば通学の面からいうとバスを運行していく際に人数的なことや乗降場所などを合理的に考えた時にやはり難しい面があり、今の竹田小としての考え方につながっている。
- ・前山の4人の年代の子どもたちのことを考えると、学校の場所は竹田小になると思う。前回、前山小を見学したが、早い時期での統合となると人数がまだ多い年代もあるので、手狭と感じた。

- ・場所のことは様々な意見があるが、時期的なことはどうなるのか。
- 時期と場所をセットで考えていかないといけないと考えている。(事務局)
- ・場所についてここで決まるものなのか。中々決められないのではないか。
- 合議体としてこの委員会や地域部会を組織しており、それぞれの母体から代表という形でここに出ていることから、ここで決定していくことになる。(事務局)
- ・希望の多い令和6年度の統合を目指すのであれば、逆算して覚悟をもって決定していく必要があるのではないか。この議論が長引いて影響を受けるのは子どもたちなので、これからの判断は大切にしなければいけないのではないか。
- ・統合後の校舎をどうするかということも議論を進める中で重要になってくる。基本の校舎は竹田小にしておいて「～については前山小校舎を使う」といったことができれば議論が前に進むのではないか。
- ・主の学校ではなく準の学校を使うような形は教育委員会としては可能なのか。廃校を林間学校のような形をとれないか。廃校となっても維持管理費は必要であるのではないか。
- 通常廃校となれば各種保守管理等、打ち切っていくものもある。廃校を活用する事業者が出てくれば、そちらが費用負担していくことになる。廃校活用については、市の方針に基づき、市として活用があるかどうか、活用がなければ地域で活用されるかどうか、地域でも活用がなければNPOや民間事業者の活用があるかどうかの順に進められ、一定期間何も活用がなければ解体となっていく。(事務局)
- 廃校舎を遠足で使用するのか、学習で使うのか、イベントで使うのか等の議論を持ち出すと、令和6年度開校のスケジュールには到底間に合わないのではないか。
- ・この統合協議が始まった時には、前山小は竹田小に行くんだらうと考えていたが、前山小を残してほしいという意見も周りから聞いている。個人的に竹田小学校の校舎を見たことがなく、見学をしたいという保護者の意見もあったので、できれば見学会をおこなって欲しい。
- ・見学はできるのか。
- コロナの蔓延防止の間はできないが、解除されればできる可能性もある。
- ・当初から両校の見学をすべきとの話をしていて、見学をしていないのに何を協議するのかと思っている。
- ・前回の地域部会で令和6年に開校となれば、どういったスケジュールになるのかといった話もあったが、複式学級を回避するための令和7年、8年といった意見もあったため、その辺も考えてもいいのかもしれない。
- ・無理に進めるのではなく、判断材料を揃えてから判断するほうが良いのではないか。
- ・メンバーが変わっていく中で結論を出していかなくてはならないことになる。
- 引き続き議論が必要なので、役員交代された委員にも4月以降も部会に入ってもらい、一定の結論が出る7月頃まで継続した協議をお願いしたいと考えている。(事務局)
- 委員の了解を得た。
- ・校舎の見学会は委員だけか、保護者も含めるか。
- 今後、役員に相談する際を考えると役員にも見てもらってもよいのかとも思っている。(事務局)
- ・多分その時の都合で私は見に行けなかったのだからわからないとか、メンバーを広げたら広げたで、そこで(見学のメンバーから)外れていたのだから私は議論に参加できないといった話出やすいと思う。なので、人数を増やすことでその部分をカバーしようとするのは、大丈夫かなという心配はあります。
- 最初から言っているが、教育委員会の主導でお互い見たい人が2校の小学校を見学すればよい。それを今ごろになって言うのはおかしい。
- 感染状況がなければの話になる。

- 去年の7月からずっと事務局に言ってきた。
- 何故延期になったかをご存知ですよね。今説明ありましたよね。そこをすっ飛ばしてその話をするのは、やはりちょっと手続きとしておかしいですよね。
- この件に関して教育委員会は少しも動いてないということですよ。
- お話がわかっておられますか。動けないという話をされてたんですよ。動いてないじゃない。ここに至るまでの話で、それはちょっと事務局に対しての理解がなさ過ぎる話だと思います。
- 教育委員会まで行って話もしましたよ。
- お1人で見に行くわけではないんですよ。皆さんで見に行くのであれば日程の調整も必要でしょうし、施設の調整も必要となります。調整の途中でもろもろの状況が起きたので、延期になりましたという話を最初にされたのではないですか。なぜそれを飛ばして今その話になるのでしょうか。議論をちゃんと積み上げましょうよ。できないところの話で議論をするのは根本からおかしいです。少し状況を整理しましょう。見学をさせたくなくてここまできてるわけではないことは、皆さんご存知のはずですよ。そこを事務局の怠慢とか悪意の形でまとめるというのはやはり議論が乱暴ですよ。ここにきて議論を追いつかせようというときに、見たい人が全員が見るというのは、機会がちゃんととれるのかとかそういう話を今申し上げたわけです。何か工夫がいるのではないかという話です。見に行ける方がビデオ回すでもいいでしょう。写真を撮るもいいでしょう。来れない方に情報提供する手段は他にもあるじゃないですか。そうやって議論を前に進めましょうという話です。

2 その他

- ・次回日程 令和4年4月15日（金）19時30分～
竹田小学校